

みうらトーク&トーク 平成 25 年度第 2 回

日 時

平成 25 年 8 月 26 日(月)

19 時 30 分～21 時 15 分

参加者

特定非営利活動法人 協働支援部会

テーマ

地域活性 新キャラクター発表会



<意見交換・概要>

市民 このNPO法人は、自営業者に対しての経営に関する事業を行い、経済活動の促進に寄与するという目的であるが、三浦市で商売やっている方に対して、一緒になって物事を考え、一緒になって仕事をしていこうという形で活動している。会社の社長や個人の事業主は、誰にも相談できないことが多い。それをみんなでなんとかしようというかたちで集まり、そういったことに悩んでいる方の相談役としての位置づけとして活動している。

三浦市に住んでいて就職するとなると、三浦市が遠いという理由だけで断られ、就職口がない。ということは、三浦市で残るには、自分で起業をしないと行けない。こういう現状であるから人口流出はしかたのないことである。

市長 いま、お話しいいただいた内容は、我々も認識していて、観光客の誘致については、多数の来客があり実現しているが、どのくらいの経済効果を生んでいるかの検証や、人口の減少のこと、交通アクセスの問題などをいろいろかかえていているが、それらを同時に解決するのはなかなか難しい。現状では多くの方に三崎・三浦を知っていただいて存在感を高めていこうということをしていて、さまざまな皆さんにご協力いただいて、一定の効果は得ているが、次のステップ、雇用関係の整備など、次のテーマとして取り組んでいる最中である。

このNPOの活動の目的は、三浦市の目的と重なるので、アドバイス、ご意見などお話しいただければと思う。

市民 事業者が融資を受けるときは、審査があつて融資を受けるのが難しい。NPOで解決しなければならない事業である。私たちが新しいキャラクター作っていて、このキャラクターを使っているやっていくのであるが、のぼりや人形の作成費用などこれからお金がかかってくる。起業する方も、事業計画書を出さないといけない。とういつたときに、行政の方で、銀行などの金融機関との間に入ってくれる人がいると非常にうれしい。どのようにすれば融

資受けられるのかを相談できる人がいるとよい。東京都板橋区はそういった試みをやっている。板橋区は、行政が個人の融資、経営相談などを行う部署がある。経営に困ったときに誰に相談していいかわからない。力になってくれる人や的確に答えてくれる人がいると、経営に困った人は助かる。そういったところを、バックアップしてくれる行政の部署がある
とよい。

市長 行政が、金融面での支援をしていくのは、なかなか難しいかもしれない。融資を決定するのは金融機関であるから、金融機関が経営者を見て判断している。しかし、そういう声があって、行政として商工会議所と連携し、または行政が単体でそれをカバーするようなことを模索する必要はあろうかと思う。

市民 初声町入江の住宅建設の計画の進捗状況はどうか。

市長 ホームセンター建設が現在進んでいるが、住宅については未定である。

市民 住宅については、新たに住む人がいるかどうかである。

ホームセンター開業後、三浦の雇用が期待される。

市長 当初の開発計画は、住宅が中心で、ホームセンターの機能はなかった。

将来的には、良好な住宅地として、開発をしてほしいと思う。

市民 ホームセンターが来れば、三浦市にとって有意義である。

市長 交通の問題など、解決しなければならない問題があるので全てOKというわけではない。
住宅開発と鉄道と道路の問題があるが、今先行して住宅開発をしている。

それに関連する西海岸線の道路、鉄道がどこまで延伸するか、西海岸線を先にやろうかというところ。小網代に大きい橋を架けることになるが、そこが心配である。

市民 橋を架けることに反対する人もいる。

市長 橋脚のない橋は高価である。幅員によっても費用は変わる。

市民 二町谷の件はどうか。

市長 売買契約が締結されたがその後苦戦している。

市民 年末ビックセールのときに二町谷の土地を駐車場として使っているが、事業が始まってしまくと、駐車場としては使えなくなってしまう新たな問題が生じる。

市長 二町谷の件は真剣に取り組んでいるので、ご協力願いたい。

市民 みうら夜市は今年5回目が開催され、成功していると思う。下町地区に新しい出店も増えているのも夜市の効果である。長く続けられれば良い。

市民 三浦はなぜ産直センターがないのか。横須賀は『すかなごっそ』を作った。結果、『すかなごっそ』はよく売れている。今では、農家もそこで売るために作っているというように変わってきている。三浦も、何かやれば、農家も漁業者ももう少し前へ出られるようになるきっかけになるのではないかと。以前は、三崎高校の跡地や三戸原に作るような話はあった。

市長 三崎高校跡地に産直センターを作るという話は、大きな話である。農協が借地でやるという話もあった。借地でやるということはできなかった。各地から三崎への来客が帰りがけに三崎高校跡地に寄ればよいが、そこで止まってしまい、三崎までこないのではというおそれがあった。三崎への来客は増えているのだから、三崎の港周辺で魚も野菜も買えるのがよいので、二町谷もその視野に入っている。

市民 海の近くに、車のお客さんも、ヨットのお客さんも寄れる『海の駅』という構想がある。いまのうらりでは規模が小さい。中が見えにくいので、産直センターであることがお客さんにはわかりにくい。

車を停められて、大きなトイレがあつて、休憩できる場所が必要。『道の駅』のような、どこにでもあるような施設が三浦にはない。おみやげ屋もきれいなお店が必要。

市民 朝市会場は、現在借りているものであるが、将来的に使い続けられるのか。

市長 当面は使える。常設の場所は必要である。

市民 朝市は日曜日の朝だけなので、朝市会場を日曜日以外の日に、朝市以外の用途で活用できないものか。

市民 三浦市の防災についてであるが、市内の小中学校にはどのくらいの人数を何日ぐらい抱えていられるのか。発電装置はあるのか。トイレの問題。水はどうか。

市長 避難所への備蓄を進めている。避難できる人数は1万人くらい。それらの人の3日分くらいの食料を備蓄する方針で進めている。現状でも、それに近い量の米、水はある。まずは、命を守る行動が大事なので、津波からの避難ルートを各自治会で確認してもらったり、避難ルートの表示をわかりやすくしたりしている。東日本大震災の当日には、三浦市内でも、約4,000人の市民の方が避難をした。避難所の発電機が動かないトラブルが多く発生し、消防団や建設業のみなさんが灯光器と発電機を全部治してくれた。これは大きな反省点であった。いまは、定期的に点検を行うようにしている。

市民 当区では、自前の発電機を2機所有している。

自分の分の備蓄食料を確保している市民がどのくらいいるか。

学校給食センターは稼働できるか。

市長 稼働するように指示はしている。

市民 市に任せればいいやというのではなく、自分の家族は自分でどうにかしようねという、啓発をした方がよい。

市長 防災マニュアル、津波ハザードマップを作製し配布した。

市民 土建業者の協力を得ることは不可欠では。

市長 協定を締結し、災害時に頼りになるのは地元の業者さんである。

市民 下町地区は、シャッター通りになっている。商店街の入り口が分かりにくい。お客さんの数が増えているというが、本当だろうか。

市長 来客数は増えている。うらりから商店街にお客さんを誘導することが課題である。

市民 三浦に来て、三浦に来た実感がわくような雰囲気がない。ドライブイン、トイレなど、観光のための基本的な施設が全てない。ほかの観光地を見ればおのずとわかる。三浦海岸の有料駐車場の中の公衆トイレのようなものではない。

市民 うらりのなかのみうらブランド館の場所、作りをなんとかしたい。うらりの中に間借りしている状態である。みうらブランドの登録料が高いことも問題である。

市民 B-1にしても、カレー、ラーメン、おでんとハードの方は出そろった感じであるから、あとはソフトの方である。そこで新キャラクターを作り、これらをおみやげに使うこととしたい。

三崎のマグロは冷凍だから、保存、解凍の仕方で味が変わる。間違えるとまずくなる。このことを購入者に注意をしてもらうようにする。

遊び心がないとつまらないものになる。サイクルが早いので常に新しいものを考えないといけない。

市民 カツオの販路について、小規模から始めている。よその大きい企業に来てもらうのはありか。

市長 勝浦の成功は、行政と市場の連携の結果である。販路と市場の体制をする必要がある。三崎にはエサ、燃料があるので、活用したい。

市長 本日はありがとうございました。

※ 公表については了承を得ております。